

2023卒

就職活動スケジュール 徹底解説

収束の兆しが見えないコロナ禍。
23卒就職活動への影響は？

2023卒（2021年6月時点で学部3年生／修士1年生など）の就職活動は、採用スケジュールの多様化／早期化といった傾向に加えて、収束の兆しが見えない新型コロナウイルス問題もあり、不透明感が増しています。23卒予定の理系学生の就職活動スケジュールはどのような日程になるのでしょうか。本記事では、23卒就活スケジュールの見通しや、注意すべきポイントを解説します。

2023卒の採用情報解禁は
2022年3月、
面接は6月開始

2020年10月に政府は「2023年春に入社する大学生の就職活動について、面接を（2022年の）6月に解禁する現行ルールの維持」という方針を決定しました。

一部では就活スケジュール撤廃・変更の議論も持ち上がりましたが、コロナの影響で就職環境が悪化する状況下で就活生の混乱を避けるべく、現状維持での決着となりました。

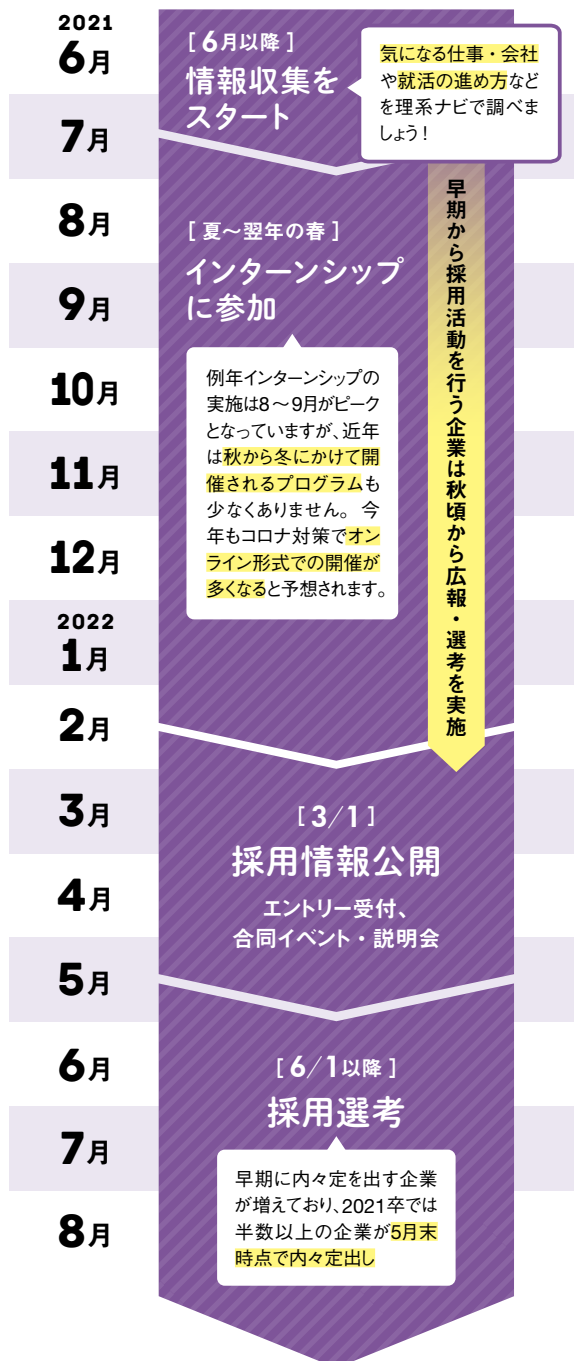
現行（2022卒）の基本的な就活スケジュールを改めて確認すると、まず学部3年／修士1年の夏から冬にかけてインターンシップが実施されます。本採用の選考活動が本格的にスタートするのは翌年（2021年）3月1日からで、この日から大手就職サイトでも企業の採用情報や会社説明会情報が数多く公開され、就活生も企業エントリーや説明会参加といった活動を本格化させます。そして6月1日から企業の採用選考（面接や筆記試験など）が解禁となり、選考通過者に対して随時内々定が出される、というのが大まかな流れとなります。

就活スケジュール、
選考プロセスは
企業ごとに多様化が進む

前述の就職活動スケジュールはあくまで政府推奨の日程であって、実際はこのスケジュールに沿った採用活動を行う企業ばかりではありません。現在でも、学部3年／修士1年の夏以降から採用直結型インターンシップを行う企業や、翌年6月以前に面接を実施して早々に内々定を出している企業など、早期から採用活動を行っている企業は少なくありません。特に近年は採用活動が一段と早期化しており、2021卒の就職活動では5月末までに54%の学生が内定を受諾しているという調査結果が出ています（理系ナビ調べ）。早期がらしっかり情報収集に取り組むことが一層重要といえるでしょう。

2023卒 就活スケジュールの見通し

昨年度の動きを参考にした2023卒向け就職活動スケジュールの大まかな見通しです。企業の選考活動時期は多様化しているので、志望企業・業界の選考スケジュールは個別にチェックしましょう。



コロナの影響で就活プロセスも激変。WEB就活が一気に浸透

コロナ問題は収束の兆しはなかなか見えず、2023卒の就職活動においてもその影響は避けられないでしょう。引き続き、不特定多数が集まる合同説明会やインターンシップの開催は減少する可能性が高く、オンラインで採用活動を行う企業の増加が予想されます。採用選考でも、初期の面接はWEBで実施して最終

面接など後半の選考は対面としたり、最終面接までWEBで完結させたりしている企業もあります。とはいえ、一度も双方が実際に会うことなく、内定まで至っているケースでは、企業、学生ともにマッチングに対する不安を抱いているというケースも少なくないようです。

23卒対象のサマーインターンシップ（2021年夏実施）についても、多くの企業がオンラインでのインターンシップ実施を予定しています。

インターンシップといえは、実際の職場で社員とともに働けるリアルな就業体験が大きな魅力であり、企業としてもオンラインで実施したいという意向が強いのですが、今後の社会状況によっては、インターンシップの在り方自体が大きく変わる可能性があります。

コロナ禍の就職市場への影響は

いわゆる「コロナショック」により日本経済は大きな打撃を受けてい

ます。就活市場への影響も始まっており、22卒の大学就職内定率（2021年4月1日時点）は28.1%と前年同期比で3.2ポイントの下落。景気悪化が進行すれば、23卒の就職難易度が上昇していく可能性は否定できません。とはいえ、プラス思考でとらえれば「先に就職した先輩達よりも、コロナ後の経済の在りようを見極めたうえで業界・企業を選べる」という考え方もできます。コロナ禍においても業績を伸ばしている

業態・企業は少なくないですし、一時的に業績が悪化したとしても中長期的には大きな成長可能性を秘めた企業もあるので、必要以上に悲観的にならず、業界・企業研究に取り組んでください。

2023卒はさらなる 就活早期化で高まる インターンシップの重要性

理系学生は卒業年次に学業が忙しくなるケースが多いため、就職活動が本格化する前に学業や研究、就活準備などを可能な限り進めておくことが望ましいでしょう。早期に内定を獲得できれば問題ありませんが、学部4年／修士2年の夏以降も就職活動に取り組む必要が出てくると、学業への影響はさらに大きくなってしまいます。

また、近年は早期選考や通年採用を実施する企業が増えているため、就職活動を円滑に進めるためには早めに行動を起こす必要があります。選考プロセスにおいてインターンシップを重視している企業が増加しているため、できる限り学部3年／修士1年の時点でのインターンシッ

プ参加を推奨します。インターンシップは仕事や会社についての理解を深められるだけでなく、参加学生に対して優先的に採用選考情報を提供したり、そのまま採用選考を実施する企業もあるため、参加メリットは少なくありません。そのため、採用選考が本格化する前にインターンシップに参加できた学生は、志望理由が明確で自己分析も深掘りできているケースが多い印象があります。

とはいえ、現時点では「どの業界／職種を志望すればいいのかわからない」という方も少なくないでしょう。そういったケースでも、少しでも関心を持ったインターンシップに参加してみましょう。インターンシップは仕事や会社について、多くの判断材料を集められるので、自身の適性や本当にやりたいことを見極める絶好の機会です。仮に「全然イメージと違った、自分には合わないと思った」といった結果でも、今後の行動指針を決めるうえで貴重な情報を得られるはずです。

すでに多くの企業で2023卒向けインターンシップのエントリー受付を開始しています。最近ではWEB

インターンシップや、短期の1dayインターンシップを実施する企業も増加しており、参加のチャンスは広がっているので、みなさんも『理系ナビ2023』で興味のある

プログラムを探してみてください。就職活動が本格的に始まるまでにインターンシップを活用し、自分の適性や社会に対する理解を深めてみてはいかがでしょうか。

まとめ

現在進行中の2022卒就職活動は、コロナの影響で選考プロセスや就活スケジュールの変更を余儀なくされています。インターンシップの実施時期やオンラインでのプログラム提供などはまだまだ改善の余地も多く、現状を分析したうえで2023卒就活における選考プロセス、スケジュールの見直しを行う企業は少なくないでしょう。繰り返しとなりますが、23卒就活生は各企業が発信する最新情報を早期からチェックし、行動計画を考えることが一層重要となります。就職活動が本格化するまでの時間を活用し、社会についての理解を深めたり、自身のスキルアップに努めたりと、時間を有意義に使ってください。「自分が将来どうなりたいのか」「そのために何をすべきなのか」いまから考えてみてください。



2023卒 就活のチェックポイント



CHECK!

1

基本的な就活スケジュールは 22卒から変更なし

23卒対象のインターンシップは2021年夏から冬にかけて実施。就職情報解禁は2022年3月、面接解禁は6月から（政府推奨スケジュール）。

CHECK!

2

基本スケジュールに先行して 採用を行う企業は増加傾向

2021卒の就職活動では学部4年／修士2年の5月末までに54%の学生が内定を受諾。早い企業は前年の秋から採用活動を開始。23卒就活では基本スケジュールにとられない企業がさらに増加か。

CHECK!

3

就活のオンライン化が加速

コロナ対策で、会社説明会や面接などをWEBでの実施に切り替える企業が増加。インターンシップについても、オンラインプログラムを検討している企業も。

CHECK!

4

コロナショックによる 就活市場への影響は不可避

22卒の大学就職内定率は28.1%（4月1日時点）と昨年同期比で3.2ポイントの下落。直近のニュースに振り回されず、中長期的な視点を持って企業・業界研究に取り組みましょう。

CHECK!

5

企業選考における インターンシップ重視の傾向はさらに強まる

採用直結型のインターンシップを実施する企業が増加傾向。情報収集の面でもインターンシップ参加は就職活動における大きなアドバンテージを得られる。